

第24回

神戸須磨ライオンズクラブ旗 マック鈴木杯争奪少年少女野球大会

日時：令和元年11月4日(月) 9時

場所：G7スタジアム神戸

決勝戦：令和元年12月15日(日)

場所：G7スタジアム神戸

主催 神戸須磨ライオンズクラブ

運営 西神戸須磨軟式少年少女野球連盟

後援 神戸新聞社・デイリースポーツ

協賛 須磨区役所
オリックス野球クラブ株式会社
ナガセケンコー株式会社
株式会社アシックス

第24回神戸須磨ライオンズクラブ旗マック鈴木杯争奪少年少女野球大会 開会式 式次第

日 時 : 令和元年11月4日(月) 9時00分～
場 所 : G7スタジアム神戸

0. 選手集合 午前 8時00分
1. 選手入場 午前 9時00分
2. 開会宣言 西神戸須磨軟式少年少女野球連盟 副会長 綿貫 功一
3. 国旗掲揚
4. 前年度 6年生優勝・準優勝・3位・4位、5年生優勝・準優勝チームによる
優勝旗・優勝杯・準優勝杯の返還並びにレプリカの授与

6年生の部
優勝：白川ホーネッツ 準優勝：枝吉パワーズ
3位：出石ガッツベース 4位：住吉少年野球部
5年生の部
優勝：武庫が丘シルバース 準優勝：枝吉パワーズ
5. 挨拶
主催者挨拶 ○大会会長(神戸市会議長) 安達 和彦
○神戸須磨ライオンズクラブ会長 北川 昌幸
○ マック鈴木
○西神戸須磨軟式少年少女野球連盟 会長 山里 勉
○西神戸須磨軟式少年少女野球連盟 理事長 志賀 久高

来賓挨拶 ○須磨区長 片山 昌俊
○ナガセケンコー
○オリックスバファローズ
6. 来賓紹介
7. 審判長訓示 西神戸須磨軟式少年少女野球連盟 審判部長 光辻 慎二
8. 選手宣誓 板宿少年野球部 主 将 薬師神 一城
9. 始球式 投手 マック鈴木 捕手 オリックス バッター 片山区長
10. 閉会の言葉 西神戸須磨軟式少年少女野球連盟 副会長 三田 謙二
11. 選手退場

第24回神戸須磨ライオンズクラブ旗マック鈴木杯争奪少年少女野球大会規則

- ① この大会の競技規則は当該年度「公認野球規則」及び「全日本軟式野球連盟競技者必携・学童野球の関する事項及び下記細則」により試合を行う。大会特別規定を設け、その規定を優先とする。
- ② 試合は7回とし、85分を超えれば新しいイニングには入らない。(時間制を採用する)決められた回数、時間が経過して勝敗の決しない場合は、特別ルールで勝敗を決める。
- ③ 特別ルールは、(無死満塁で打順は、監督の選択とする。尚も同点の場合は継続打順で行い決着が着く迄行う)
- ④ 6年生の決勝戦は7回とし、100分を超えれば新しいイニングには入らない。時間を超えて同点の場合は、特別ルールを適用する。5年生の決勝戦は、7回とし85分を超えて新しいイニングには入らない。時間を超えて同点の場合は、特別ルールを適用する。
- ⑤ ベンチにはチーム責任者1名、監督1名、コーチ2名、スコアラーとし最大5名までとする。監督・コーチは、ユニフォーム(30・29・28番)を着用し、それ以外はユニフォーム着用は認めない。
- ⑥ ベンチは組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。試合会場を提供したチームは、1塁側もしくは3塁側を選択できることとする。
- ⑦ 大会試合球は連盟公認J球でナガセケンコー球を使用する。
- ⑧ バット・ヘルメットは連盟公認(JSBB)のみ使用できる。
- ⑨ 捕手は必ず連盟公認のマスク、レガース、プロテクター、ヘルメット、ファールカップを着用すること。
- ⑩ 打者、走者、ベースコーチ、次打者は、必ずヘルメットを着用すること。
- ⑪ 監督、コーチは時間短縮のためタイムを求め、球審が認めたときは、選手に指示を与える。選手交代も同様に時間短縮につとめなければならない。
なお、抗議できるのは監督のみとする。但しルールの確認行為のみとする。どんな理由があろうと相手チームのプレイヤー及び審判員に対し、悪口、暴言を吐く事を禁ずる。
- ⑫ 試合におけるトラブルなどは球審または審判員の決定に従うこと。
- ⑬ その他、運営面におけるトラブル等は本部役員または担当役員の決定に従うこと。
- ⑭ グラウンドで発生した負傷は、主催者では一切のその責任は持たない。各チームで責任をもって対応すること。
- ⑮ 雨天の際の可否判断はそれぞれの担当役員から連絡するものとする。
- ⑯ 降雨、落雷等により試合を中止した場合、4回終了時で成立する。
- ⑰ 得点差によるコールドゲームを採用する。3回以上10点差、5回以上7点差とする。
- ⑱ シートノックは4分間とする。但しG7スタジアム神戸及び1・2回戦のノックはなしとする。
- ⑲ チームは試合開始時間の45分前に本部席にメンバー表4通(G7スタジアム神戸は5通)を提出し、先攻後攻のトスを行なう。
- ⑳ ボークは、最初から適用する(5年生は1回注意)

《変化球に関する事項》

学童部の投手は、変化球を投げることを禁止する。

変化球を投げた場合は次のペナルティを課すこととする。

変化球を投げた場合とは、投球が審判員によって、変化球と判断された場合を言う。

〈ペナルティ〉

- (1) 変化球に対して”ボール”を宣告する。
- (2) 投手が変化球を投げた場合は、投げないように監督及び投手に厳重注意する。
注意したにもかかわらず、同一投手が同一試合で再び変化球を投げたときは、その投手を交代させる。なお、その投手は、他の守備位置につく事はできるが大会期間中、投手としては出場することは出来ない。
- (3) 変化球が投げられたときにプレイが続けられた場合は、打者が一塁でアウトになるか、走者が次塁に達するまでにアウトになった場合は、プレイを無効とし、打者のカウントに”ボール”を加える。
この場合、状況によっては攻撃側の監督の申し出があればプレイをそのまま有効とする。ただし打者が安打、失策、死球、その他で一塁に生き走者が進塁するか、占有塁にとどまっている場合は、変化球とは関係なくプレイは、そのまま続けられる。